

人口減少・地方創生 プロジェクト

市の「農業を核としたものづくり拠点の形成と産業創出プロジェクト」事業では、地域連携集落活性化支援事業として軽トラ市や買い物代行サービスなどに取り組んでいます。



商店街と農村部が連携した集落支援モデル

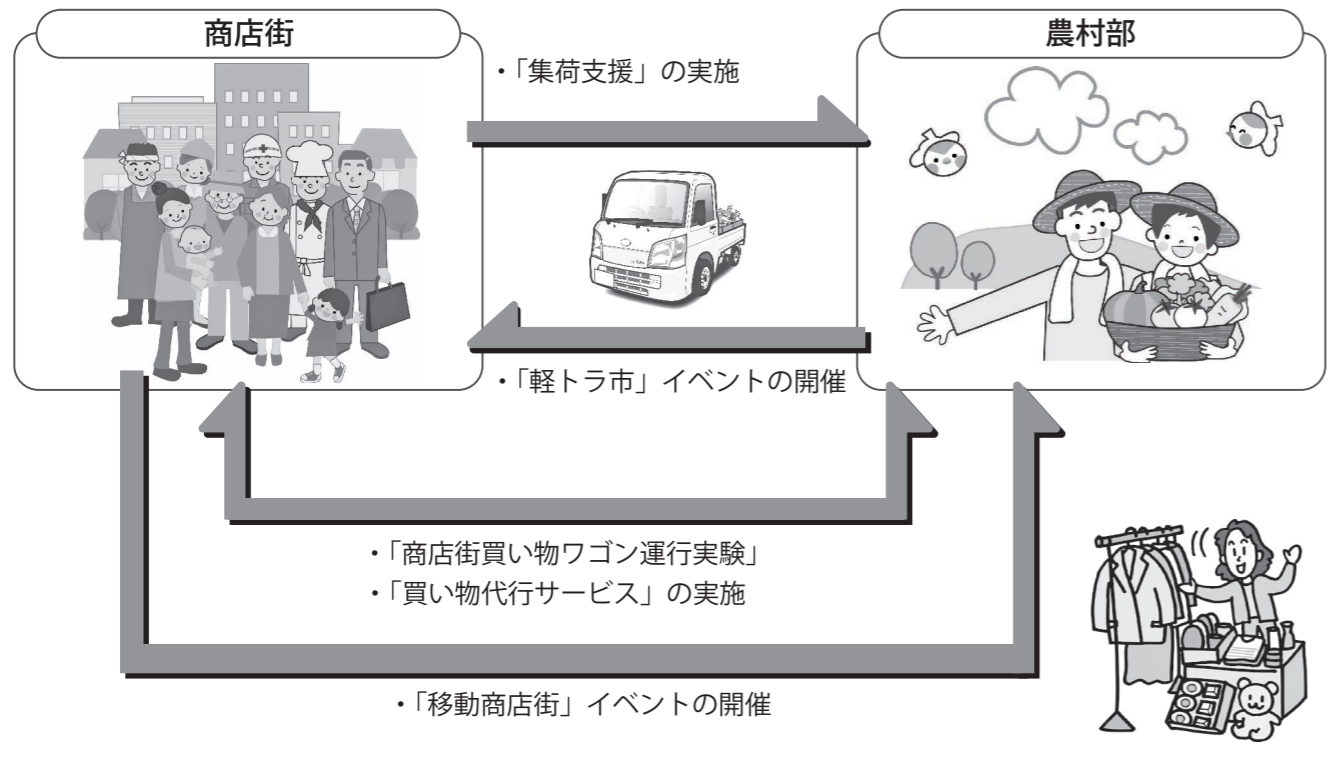
市は、国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用し、「農業を核としたものづくり拠点の形成と産業創出プロジェクト」事業を実施しており、このプロジェクトの1つとして、地域連携集落活性化支援事業に取り組んでいます。

超高齢化や過疎化などの社会情勢の大きな変化に伴い、農村部では買

い物する場所や移動手段などの生活基盤が低下しています。また、商店街では店舗数の減少に伴う集客力の確保が課題となっています。

このような状況の中で、地域連携集落活性化支援事業は、留萌市商店街振興組合連合会に委託し、高齢農家などの農産物の集荷支援と商店街での産直販売支援、農村部の買い物支援に取り組むことで、商店街と農村部との結びつきから「モノ」「ヒト」「経済」などの交流を増やし、新たな集落支援モデルの構築とマチの活

商店街と農村部が連携した集落支援モデルの概要



▲集落支援モデルフロー図（概略版）



▲朝採れ野菜を求める地域住民でにぎわう「軽トラ市」

性を図ることを目的とするもので

農作物の集荷・販売支援 「軽トラ市」を開催

農村部（藤山・幌糠地区）で高齢農家などが栽培した野菜の集荷支援を実施しています。

また、産直販売支援として、農家の庭先で集荷した朝採れ野菜を販売するイベント「軽トラ市」を市内開運町にある「開運あずまし屋」横の駐車場で、9月末まで毎週火曜日、木曜日の週2回開催し、マチのにぎわい創出に積極的に取り組んでいます。

農村部の買い物支援 「買い物代行サービス」

農村部の買い物支援では、生活用品や食料品などを市内商店街で事前注文を受けて配送する「買い物代行サービス」や農村部から商店街へ定期運行する「商店街買い物ワゴン運行実験」を実施します。

さらに、旧幌糠小・中学校を活用し、臨時的に商店街から生活物資や食料品などを持ち運ぶ「移動商店街」イベントの開催を予定しています。

お問い合わせは
政策調整課 ☎42-1809
<http://www.e-rumoi.jp/>

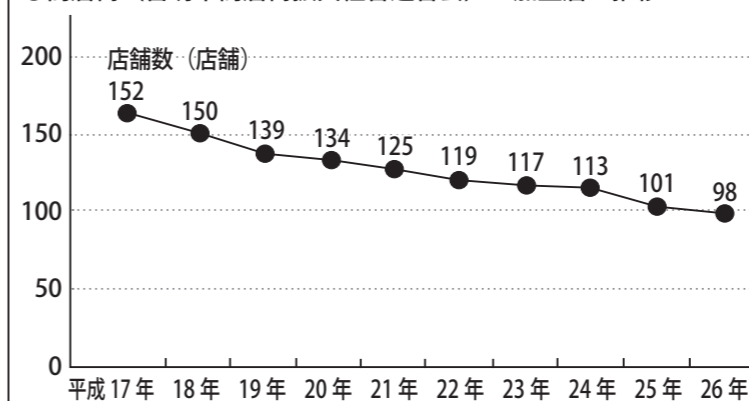
つながりを温める良いきっかけに

「軽トラ市」は、たくさんの方に喜んでもらっています。本事業を契機に商店街と農村部とのつながりを温める良いきっかけにしたいと考えています。



留萌市商店街振興組合連合会
専務理事
むろもと 室本 直俊さん

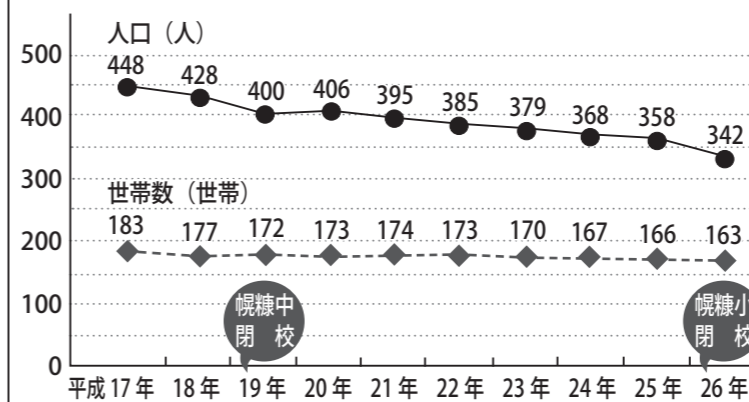
●商店街（留萌市商店街振興組合連合会）の加盟店の推移



商店街（留萌市商店街振興組合連合会）の加盟店舗数は、減少傾向で推移しています。

10年間で見ると、平成26年は98店舗で最も低く、17年と比べると54店舗減少しています。

●農村部（藤山・幌糠・樽真布地区）の人口・世帯数の推移



農村部（藤山・幌糠・樽真布地区）の人口、世帯数はいずれも減少傾向で推移しています。

10年間で見ると、人口、世帯数のいずれも平成26年が最も低く、10年間で人口は106人、世帯数は20世帯減少しています。

▲商店街、農村部の10年間の推移（平成17年～26年）